幼年教育研究年報　第31巻　89－95
The Annural Research on Early Childhood, 2009

韓国と日本における幼児の砂遊びに関する研究の動向

朴　　恩美[1]・中坪　史典[1]

Study Trends on Sand Play among Young Children in Korea and Japan

Eunmi Park[1] and Fuminori Nakatsubo[1]

The purpose of this study is to review study trends on sand play among young children in Korea and to compare these trends with the results and the problems observed in Korea and Japan. We collected Korean precedent studies and classified them into nine categories, as follows: (1) The meaning of sand play for young children. (2) The characteristics of sand play among young children. (3) The changes observed in young children with special needs after engaging in sand play. (4) The relationship between age and sex differences and sand play for young children. (5) The changes in the actions of parents and their children brought on by sand play. (6) The influence of water and toys on sand play. (7) The influence of sand play on Integrated Education and Child Care. (8) The influence that sand play has on the emotional development of young children. (9) The different types of sand play engaged in by young children.

As a result, we identified two points of similarity in the studies of Korea and Japan. First, both Korean and Japanese studies clarify the meaning of sand play for young children and the relationship between children's ages and their involvement in sand play. Second, studies about sand boxes are now being developed in Korea, whereas historical studies of sand play have traditionally been developed in Japan.

Key Words : Japan, Korea, children, infant, sand, sand play

目　的

幼稚園や保育所で幼児が夢中になって砂遊びをしている姿を見ることは，決して珍しいことではない。砂をケーキやプリンなどに見立てて食べ物をつくったり，水を運んでくると，ダムの建設や川の工事が始まったりする。幼児の頭の中で創り出されたイメージが，砂場の上に具体的な形となって現れているとも言える。こうした幼児の砂遊びに注目した朴・中坪（2008）は，幼児の砂遊びに関する日本の研究動向を対象に，その成果をレヴューするとともに，今後の課題について考察した。その課題として，(1) 幼児の個人差と仲間関係に焦点をおいて検討を行うこと，(2) 日々幼稚園や保育園で幼児とともに生活している保育者からのかかわりについて検討を行うこと，(3) さらに海外に目を向けて外国の幼児の砂遊びの現象について比較検討を行うこと，などの点を指摘した。

本研究では，この朴・中坪（2008）の研究を踏まえながら，韓国における幼児の砂遊びに関する研究動向をレヴューするとともに，その成果と課題に関する韓国と日本の共通点と相違点を見出すことを目的とする。日本から見ると韓国は，諸外国の中で最も近い国であり，親しみを感じる国でもある。また，両国とも幼稚園や保育所における幼児の遊びとして，砂遊びがよく行われている。このことから，幼児が好んで行う砂遊びを対象に，韓国と日本の研究動向を

1　広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設

比較することは，まだ知られてない研究成果を明らかにすることで，今後の課題を見出すことができるように思われる。また，韓国において，幼児の砂遊びがどのような形で行われているのかを知ることは，今後の日本の砂遊びに関する研究の発展を企図するための一つの資料としても有意味であると思われる。

方　法

韓国の先行研究は以下の手順で収集した。第一に，韓国学術情報（한국학술정보）（KSI：Korean Studies Information）が提供する学術データベースサイト“KISS（Korean studies Information Service System）”，及び韓国教育学術情報院（한국교육학술정보원）（KERIS：Korea Education & Research Information Service）が提供する学術研究情報サービス“RISS（Research Information Service System）”を用いて，「어린이」「유아」「모래」「모래놀이」（「子ども」「幼児」「砂」「砂遊び」）のキーワードをもとに，論文検索を行った[i]。その結果，学会誌，修士論文や博士論文において，47本の論文があることがわかった。

第二に，47本のうち34本を入手（ネット上のダウンロードで入手）するとともに，要旨を記した文献カードを作成した。

第三に，それぞれの文献内容を精査し，９つのカテゴリーに区分するとともに，次のようなネーミングを施した。(1) 幼児にとっての砂遊びの意味，(2) 幼児の砂遊びの特徴，(3) 砂遊びによる気になる子の変化，(4) 幼児の年齢や性差と砂遊びの関係，(5) 砂遊びによる親子の行動の変化，(6) 水や玩具が砂遊びに及ぼす影響，(7) 砂遊びが統合保育に及ぼす影響，(8) 砂遊びが幼児の情緒的発達に及ぼす影響，(9) 砂遊びにおける幼児の遊び方の差異である。

第四に，それぞれの文献の記述者の立場について，それらが研究者の研究なのか，それとも保育者の研究なのかという視点から区分した。

第五に，それぞれの文献の研究方法について，それらが観察調査なのか，文献調査なのか区分した。

第六に，日本では，砂遊びが屋外の砂場で行われる遊びであるのに対して，韓国では，砂遊びが屋内の砂ボックスで行われる場合もあることから，屋外の砂場での遊びなのか，それとも屋内のサンドボックス（sandbox）での遊びなのかという視点から区分した。以上の分類を以下に示す（Table. 1）。

Table. 1 をみると，９つのカテゴリーに区分されたものの中で，砂遊びを通して，気になる子の変化について検討したものが圧倒的に多く，他方で，それ以外のテーマに関する検討は比較的に少ないことがわかる。以上の点から，韓国では今後，より多様なテーマに基づく研究が行われる必要があると考えられる。

また，記述者の立場に注目してみると，保育者の実践研究は一つの文献のみであり，日本と同様に，ほとんどの研究成果が研究者の研究によるものであった。

さらに，研究方法に注目してみると，すべての研究が文献調査ではなく，観察調査を用いたものであった。

最後に，砂遊びの形態に注目してみると，屋外の砂場でなく，屋内に設置されたサンドボックスで行われた砂遊びを扱った研究が半数以上を占めていることがわかる。

韓国の先行研究の検討

以下，韓国における砂遊びに関する先行研究について，既述した９つのカテゴリーに即して，それぞれ代表的な研究結果をもとに概観する。

Table. 1　韓国の砂遊び研究の分類（重複あり）

	ネーミング	記述者の立場		研究方法		砂場の形態	
		研究者	保育者	観察調査	文献調査	屋外砂場	砂ボックス
1	幼児にとっての砂遊びの意味		1	1		1	
2	幼児はどう遊ぶのか	2	1	3		2	1
3	砂遊びによる気になる子の変化	13		13		2	11
4	幼児の年齢や性差	4		4		4	
5	砂遊びによる親子の変化	2		2			2
6	お水や道具の提供が幼児の砂遊びの形態に及ぼす影響	2		2		2	
7	総合保育において砂遊びが発達遅延児の変化に及ぼす影響	2		2		2	
8	砂遊びが幼児の向社会性認知発達に及ぼす影響	6		6		3	3
9	砂遊びにおける気になる子とそうでない子の遊び方の違い	2		2			2

(1) 幼児にとっての砂遊びの意味

봉진영（ボン　ジンヨン）(2006) は，4歳児を対象に，砂遊びが幼児にどのような意味を与えているのかについて，エスノグラフィーの手法を用いた研究を行っている。その結果，幼児は，(1) 砂遊びを通して自分が愛着を持って作ったものに満足感を感じていること，(2) 様々なテーマで想像遊びができること，(3) 仲間の遊び方を真似したり，助言をもらったりしながら，仲間とのコミュニケーションが自然に行われていることを報告する。以上の結果から，砂遊びによって幼児一人ひとりの遊びの在り方や，幼児同士のコミュニケーションの形成に役立つことが考えられる。

(2) 幼児の砂遊びの特徴

김소영（キム　ソヨン）(2008) は，砂遊びを通して，幼児がどのように集団を構成していくのか，また，道具やテーマをどのように設定していくのかについて検討した。その結果，すでに遊びをしている側の幼児たちが周りの仲間に役割を与えたり，遊びに招いたりすることで，遊びの集団を形成していると説明した。道具やテーマの設定については，幼児は，遊びのテーマを先に決めるのではなく，自分が好きな道具や玩具を選んだ上で，遊びのテーマを決めることが多いことを報告している。そして，テーマを決める際には，仲間が一方的に決定する，幼児同士の話し合いによって決定する，保育者の助言によって決定する，などがあることを指摘する。特に，幼児の遊びの発展のためには，より多様な道具の提供と幼児同士の話し合いの過程において，保育者の適切なかかわりが必要であると述べている。

(3) 砂遊びによる気になる子の変化

先行研究の中で最も多いテーマである。박지연・이숙（パク　ジヨン・リ　スク）(2008) は，砂遊びを治療的アプローチから捉えることで，うつ・不安児に対して，サンドボックス（sandbox）を用いた遊び治療の効果について検討した。その結果，遊び治療の回数を重ねるとともに，(1) 非言語的な感情表現から言語的表現へと変化したこと，(2) 遊びに対する提案が増加したことを明らかにした。박지연ら（パク　ジヨンら）(2008) は，上記の研究結果を踏まえて，サンドボックスを用いた遊び治療が幼児の抑えられたストレスから解放感を与え，自分の感情を表していくことができたと述べている。

一方，仲間との関係という視点からみた，황선영（ヒャン　ソンヨン）(2005) は，友だちが少なく，仲間と一緒に遊ぶことが難しい幼児がサンドボックスを用いて遊ぶことで，どのように変化していくのかを検討した。その結果，初めの頃には単純な道具の配置であったのが，少しずつ遊びへ没頭し，自分をアピールするように変化し，仲間関係においても肯定的態度に変化したと報告する。

このような研究は，保育者が園生活の中で気になる子がもっている問題や抑えられた感情を把握し，それに合わせて，どのような援助やかかわりが必要であるのか，幼児一人ひとりの理解に大きな影響を与えていると考えられる。

(4) 幼児の年齢や性差と砂遊びの関係

박애자（パク　エザ）(1999) は，砂遊びの展開について，年齢や性差による差異を検討している。例えば，ママゴト遊びは，4－5歳児ともに男児より女児の方が多く，男児の場合，年齢とともに集団的遊びが多いことを明らかにする。

김소영（キム　ソヨン）(1998) もまた，男児の場合は，主に砂場で運送に必要な道具を用いながら，集団的に遊ぶ傾向にあるのに対して，女児の場合は，一人あるいは仲間とともに，美術活動やママゴトが行われる傾向があると述べている。

但し，先行研究を概観する限りでは，3歳児を対象としたものは散見されなかった。幼児の遊びにおける年齢や性差による差異について論じる際には，3歳児から就学前の幼児を対象とすることで，幅広い検討が可能になると考えられる。この点は，今後の研究課題の一つとして指摘することができるだろう。

(5) 砂遊びによる親子の行動の変化

배현주・송영혜（ベ　ヒョンジュ・ソンヨンヘ）(2003) は，上述した先行研究とは違う観点から検討を行った。サンドボックスを親子間のコミュニケーションの媒介として使用し，母親と気になる子がサンドボックス遊びでどのような行動の変化を示すのか検討した。第一に，母親の変化として，幼児に対する積極的な聞き取りと幼児を支える言葉使いや行動の増加を挙げている。第二に，幼児の変化として，

遊びに興味をみせることができ，母親との遊びに楽しみを感じながら主導的に遊びを展開するようになったことを報告する。このような研究結果から,サンドボックスを用いた遊びにより，親子間のコミュニケーションの変化だけでなく，様々な関係性に基づくコミュニケーションの変化についても検討することができるだろう。

(6) 水や玩具が砂遊びに及ぼす影響

이지민（リ　ジミン）(2006) は，水や補助的玩具を与えることで，幼児の砂遊びにどのような影響を及ぼすのかについて検討した。(1) 何も与えてないグループ，(2) 水だけを与えたグループ，(3) 補助的玩具と水の両方を与えたグループの３つに分けて検討した。最初は，全てのグループが砂自体に興味を持ち始めたが，その後，水だけを与えたグループと何も与えてないグループでは，毎回類似した遊びが繰り返されており，補助的玩具と水の両方を与えたグループでは，季節の変化や食べ物を意味する多様な遊びが展開されたという結果を報告する。こうした研究結果は，園生活の中で，より効率的な砂遊びを展開するための物理的環境構成の在り方ついて，基礎的資料となり得ることが考えられる。

(7) 砂遊びが統合保育に及ぼす影響

김은순（キム　ウンスン）(2006) は，統合保育場面における発達的に遅れのある幼児や障害のある幼児を対象に，砂遊びを通して，他の幼児とどのようにコミュニケーションを形成するのかについて検討した。その結果，発達的に遅れのある幼児は，砂遊びの中で仲間とコミュニケーションをとるために，自分の考えや感じたことを相手に伝えており，また，あるトラブルを解決する中で，社会的に成長をしていることを明らかにした。この研究は，統合保育場面において，障害児と健常児の間のコミュニケーション形成について，一つの情報と成り得るだろう。

(8) 砂遊びが幼児の情緒的発達に及ぼす影響

砂遊びは幼児の発達において，情緒的発達にどのような影響を与えているのだろうか？

천은영・박화연・김오순（チョン　ウンヨン・パク　ヒャユン・キム　オスン）(2005) の研究では，幼児は，砂遊びをする中で，仲間の遊びへの参加度が高く，協力し合って何かを作りながら，向社会性の高い行動をとっていることを指摘する。また，遊びに集中して情緒的に安定し，自分が作ったもので達成感をもつことができると報告する。こうした研究結果は，砂遊びを通して，幼児がどのように遊びを展開するのかだけでなく，幼児の内面から出てくる感情のあり方についても捉えていると言えるだろう。

(9) 砂遊びにおける幼児の遊び方の差異

장윤정（ジャン　ユンジョン）(2005) は，自尊感情の低い幼児と高い幼児を対象に，サンドボックスを用いた遊びを通して，どのように自分を表出していくのかについて検討した。その結果，サンドボックスの中で使われた玩具の配置において，自尊感情の低い幼児は，全体的に単純で活動性のない配置をすること，他方，自尊感情の高い幼児は，初めの時点から家具や乗り物などを使い，安定的で平和的な配置をしていることを明らかにした。こうした研究結果は，遊びを行っている幼児の内面の世界をつなぐ具体的な玩具の象徴性の大切さを示していると考えられる。

以上，９つのカテゴリーについて検討をしたが，朴ら（2008）の研究に照らし合わせて，日本と韓国における幼児の砂遊びに関する研究の検討から捉える共通点と相違点について述べる。

韓国と日本の先行研究の共通点

以上，韓国における幼児の砂遊びに関する先行研究の動向を概観した。以下では，本稿で既述した知見と，朴・中坪（2008）が示した日本の研究動向とを比較しながら，韓国と日本における幼児の砂遊びに関する研究の共通点について検討する。

第一に，いずれも幼児にとっての砂遊びの意味について検討されている点を挙げることができる。例えば，日本では，大野（2003）の研究において，韓国では，봉진영（ボン　ジンヨン）(2006) の研究において，砂遊びは，幼児の働きかけによってたくさんの遊びがあり，山作り，穴作りなどから，創造の世界をつくることができ，様々なテーマで想像遊びが可能であることが明らかにされている。幼児にとっての砂遊びの意味を考えることは，遊びの主体である幼児と砂遊びとの関係を捉えることができる

基本の作業であると思われる。このような研究結果に基づくことで，保育者からのかかわりや教育的意義についても考えることができると思われる。

第二に，いずれも幼児の年齢と砂遊びの関係について検討されている点を挙げることができる。日本では，半田（1998）や箕輪（2008）の研究において，３歳から５歳まで年齢とともに変化する砂の様子を見ながら，幼児同士で協力しあうことが明らかにされている。韓国では，박애자（パク　エザ）(1999）の研究において，年齢が上がるにつれて，集団遊びが多くなることが明らかにされている。このように幼児の年齢による砂遊びの変化を検討することは，幼児の発達的特徴を理解するのに有意味であり，その理解から砂遊びに対する適切な援助の在り方を考える上でも役立つように思われる。この点を考慮すると，韓国では今後，３歳児も対象とすることで，砂遊びにおける年齢にともなう発達的検討をする必要があると考えられる。

韓国と日本の先行研究の相違点

次に，以下では，本稿で既述した知見と，朴・中坪（2008）が示した日本の研究動向とを比較しながら，韓国と日本における幼児の砂遊びに関する研究の相違点について検討する。

韓国と日本における幼児の砂遊びに関する研究の相違点として，屋外遊びと屋内のサンドボックスを用いた遊びに基づく差異を挙げることができる。幼児の砂遊びに関する先行研究を概観する中で，韓国と日本の最も大きな相違点は，屋外の砂遊びと屋内のサンドボックスを用いた遊びについての研究についてである。例えば，笠間（1993，1998）によれば，日本の幼児教育施設における砂場の普及は，明治30年代半ば以降に本格化し，明治時代の半ば以降から，子どもの自発的な活動や経験の重要性が強調されるようになり，今日の砂場が普及したと言う。

このように日本の幼児の砂遊びについての研究は，砂場の普及から捉える知見が見られるのに対して，韓国の幼児の砂遊びについての研究は，屋外の砂遊びを検討したものはあるものの，砂場の普及や歴史的経緯に関する研究は見られず，サンドボックスという屋内の砂遊びを検討した研究が散見されるのが特徴である。例えば，박지연ら（パク　ジヨン）ら（2008）の研究や，황선영（ヒャン　ソンヨン）(2005）の研究では，サンドボックスを用いた遊び治療という視点から，幼児の変化について検討している。このように，幼児の砂遊びについては，日本の場合，砂場の普及という歴史的視点からの研究が存在するのに対して，韓国の場合，遊び治療という視点からの研究が存在する点が特徴的である。逆に言えば今後，日本では遊び治療という視点から，韓国では歴史的経緯という視点から，幼児の砂遊びに関する研究が行われる必要があるのかもしれない。

総括と課題

最後に，本稿で既述した知見と，朴・中坪（2008）が示した日本の研究動向を参考に，韓国における幼児の砂遊びに関する研究の成果と今後の課題，そして日本における幼児の砂遊びに関する研究の成果と今後の課題について述べよう。

韓国の場合，そもそも砂遊びというのは幼児にとってどのような意味をもつのかという観点から研究がなされている（봉진영ボン　ジンヨン，2006)。さらに屋内のサンドボックスを用いて気になる子（박지연パク　ジヨンら，2008，황선영ヒャン　ソンヨン，2005）や親子関係（배현주ベ　ヒョンジュら，2003)，また統合保育に及ぼす影響（김은순キム　ウンスン，2006）について明らかにしていることは，幼児の砂遊びを新たな観点で認識している点で有意味であると考える。一方，今後の課題としては，３歳児を対象に，砂遊びにおける年齢にともなう発達的検討を行うこと，砂場の普及や歴史的経緯に関して検討することなどを指摘しておきたい。

日本の場合，幼児の遊びの1つとして砂遊びがどのような意味をもつのか（大野，2003)，環境構成としての砂遊びの役割（塩見・立石，2002）などの知見から，保育環境の重要性が明らかにされていると考えることができる。特に，笠間（1993．1998）の研究により，日本の今日の「砂場」の普及を辿ったことは，砂遊びの歴史的観点から捉えていることで非常に有意味であると思われる。今後は，幼児の遊びにおいて，園生活をともにしている保育者からの援助やかかわりについて検討することで，幼児の砂遊びに関して保育者がどのような考えや意図を持ち，幼児たちに接しているのかを調べることは意味があると思われる。

引用文献

ベヒョンジュ・ソンヨンヘ배현주・송영혜（2003）。의사소통 모래상자를 이용한 위축아동의모-자녀간 행동변화사례연구（コミュニケーション砂ボックスによる気になる子の親子間の行動変化の事例研究）。놀이치료연구（遊び治療研究），Vol.7,No.1, 57-72.

ボンジンヨン봉진영（2006）．유치원 만4세 유아의 모래놀이에 관한 문화기술적연구（4歳児の砂遊びに関するエスノグラフィー的研究）．성신여자대학교 대학원석사학위논문（ソンシン女子大学大学院修士学位論文）．

チョンウンヨン・パクヒャユン・キムオスン천은영・박화연・김오순（2005）．생활주제에 따른 실내모래놀이 활동이 유아의 친사회적 지술및 정서지능에미치는영향（生活テーマによる屋内砂遊びが幼児の社会性と情緒的知能に及ぼす影響）．열린유아교육연구（オープン幼児教育研究）．**3**，Vol10,No.1,69-85.

半田考司．（1998）．幼稚園の砂遊び場に関する考察．常葉学園短期大学紀要，**29**，43-50.

ヒャンソンヨン황선영（2005）．또래 유능성이 낮은유아의모래상자놀이적용사례연구（仲間とのかかわりの低い幼児の砂ボックス遊びの事例研）究．한국교원대학교교육대학원석사학위 논문（韓国教員大学大学院修士学位論文）．

ジャンユンジョン장윤정（2005）．자기존중감에 따른 유아의모래상자놀이적용사례연구（自己尊重感による幼児の砂ボックス遊びの事例研究）．한국교원대학교교육대학원석사학위 논문（韓国教員大学大学院修士学位論文）．

笠間浩幸（1993）．屋外遊具施設の発展と保育思想－砂場の歴史を中心に（1）－北海道教育大学紀要（教育科学編），**43**，第2号，1993，91-105.

笠間浩幸（1998）．屋外遊具施設の発展と保育思想（2）－明治期の保育思潮と＜砂場＞－．北海道教育大学　紀要（教育学科編），**49**，第1号，1998，91-103頁

キムウンスン김은순（2006）．통합상황에서의 집단모래놀이 프로그램이 발달지체 유아의사회적 상호작용에 미치는영향（統合保育における集団砂遊びプログラムが障害児の社会的コミュニケーションに及ぼす影響）．공주대학교교육대학원 석사학위논문（公州大学大学院修士学位論文）．

キムキョンヨン김경연（1998）．실외모래놀이영역 의복합성수준에따른 아동의놀이행동（屋外砂遊びエリアの複合性レベルによる幼児の遊びの行動）．연세대학교대학원석사학위논문（延世大学大学院修士学位論文）．

キムソヨン김소영（2008）．만5세유아들모래놀이 의집단구성，놀잇감 및 주제 선정에대한문화기술적 연구（5歳児における砂遊びの集団構成・道具及びテーマ設定に対するエスノグラフィー的研究）．이화여자대학교대학원석사학위논문（梨花女子大学大学院修士学位論文）．

リジミンイジミン（2006）．실외모래놀이에서 물과 보조자료의제시유무가 유아의 창의성 향상에 미치는영향（屋外砂遊びにおける水と道具の提供が幼児の創意性に及ぼす影響）．계명대학교교육 대학원석사학위논문（啓明大学大学院修士学位論文）．

箕輪潤子．（2008）．幼児の穴掘り遊びの発達的検討．川村学園女子大学研究紀要．**19**，39-54.

大野友美子（2003）．子どもと遊び－子どもの育ちと砂場の役割．立正社会福祉研究，第4巻2号29-42.

パクエザ박애자（1999）．유아의 연령과 성에따른 물모래놀이에 관한연구（幼児の年齢と性による水・砂遊びに関する研究），유아교육학논집（幼児教育学論集）第3巻，第2号（第3巻，第2号），95-118.

朴恩美・中坪史典（2008）．幼児の砂遊びに関する日本の研究動向と今後の展望．広島大学大学院教育学研究科紀要，第三部，教育人間科学関連領域．**57**，285-290.

パクジョン・リスク박지연・이숙（2008）．우울.불안과 위축행동을 보이는 유아에 대한모래놀이 치료효과（うつ・不安とひきこもり行動を示す幼児に対する砂遊び治療の効果）．놀이치료연구（遊び治療研究）．Vol.12,NO.3,85-103.

塩見優子，立石あつ子．（2002）．幼稚園・保育園における遊び，遊具の配置，動線に関する研究－砂場，ブランコを中心として－保

育学研究，第40巻第２号，81-8

注

[i] KISSよりは学会誌の論文（15本），RISSよりは修士論文や博士論文（32本）が検索された。